

## 五條家文書

五條家文書は、鎌倉・南北朝・後南朝・戦国時代に至るまでの長期間の書状で、全369通が17巻に収められています。第1巻と第2巻には後醍醐天皇最後の<sup>りんじ</sup>繪旨や後村上天皇・長慶天皇・良成親王の書状などが収められており、歴史上極めて貴重なものです。



後醍醐天皇最後の繪旨（誓の繪旨）



## 八幡大菩薩旗（写真中央）

金烏の御旗とも称される「八幡大菩薩旗」は、後醍醐天皇が皇子懐良親王を征西將軍に任じられたとき、「みしるし」として授けられたもので、「金烏」とは太陽のことです。

伝 五條頼元着用の甲冑 写真左  
大保原の戦いに着用した甲冑と伝えられ、兜には激戦を物語る矢の痕が残る

伝 後征西將軍良成親王御遺品 写真右  
具足、籠手、脛当て



## 襖絵

懐良親王軍4万・少弐大友軍6万が筑後川周辺で戦った大保原の戦を描いたもの。懐良親王や五條頼元、それに菊池武光が太刀を洗う場面が描かれています。遠くに宝満山、古処山、手前には城山（花立山）が描かれています。



別所長康 作（明治36年）

お問い合わせ先

八女市教育委員会教育部文化振興課 福岡県八女市本町 647 番地 TEL:0943-23-1982

五條家は平安時代から続く清原家の一流で、代々明經道をもつて朝廷に仕えた公家です。

五條家の始祖頼元は、延元元年(1336)懐良親王が征西將軍宮として任ぜられるにともない、その補佐として九州下向に付き従う命を賜りました。かねてより後醍醐天皇の信任厚かった頼元は、御年7、8歳の幼少の親王の扶育、そして学問の師としてつとめ、常に親王のそばで九州における足利追討の軍務を補佐しました。九州各地に転戦し、吉野を出てから26年目に、悲願の九州平定の偉業は成し遂げられました。

頼元は、正平22年(1367)筑前三奈木の荘(現在の甘木市)で没し、激動の78年の生涯を終えます。2代良氏・3代良遠・4代頼治・5代良量は、いずれも父祖の志を継ぎ、征西將軍宮懐良親王、後征西將軍宮良成親王のお二人の親王を守護し、矢部を本拠にして、忠節を全うします。

その後の南北朝合一後も五條家は矢部の地に残り、奥八女の有力な土豪として勢力を保持しました。

戦国時代には、当時九州において一大勢力を誇った豊前の大友氏と同盟し、12代鎮定は大友宗麟に仕え、武將として名を挙げました。

天正15年(1587)、豊臣秀吉の天下統一の中で、領地を没収され、一時豊後の玖珠に移り、大友家衰退後は、肥後の加藤清正に500石の知行を得て、八代に居住しました。加藤家改易後、14代長安は大友家に仕えていた時の盟友で、後に、再封された柳河藩主立花宗茂に仕え、寛永3年(1636)旧縁の地であるこの地(大淵)に還り、現在に至っています。現在の五條氏邸はその当時のもので350年を経たものです。

五條家は代々、宮内庁陵墓守部として大仙公園の良成親王墓をお守りしています。現在の当主は初代頼元から25代目にあたります。

矢部村の大仙御墓所に続く大淵周辺は、懐良親王、良成親王、そして五條家ゆかりの多くの文化遺産や伝承が残る地域です。

ACCESS

## 自動車でのアクセス(約45分)

▶八女IC→国道442号→五條氏邸

## 御旗祭りの様子



五條家ではおよそ700年にわたり、南北朝時代ゆかりの宝物を守り伝えて来ましたが、年に一度、秋分の日(2023年9月23日)に五條家宝物顕彰会の主催により「御旗まつり」が執り行われます。「金烏の御旗」をはじめ、「五條家文書」等の国指定文化財が一般公開されます

# 大淵に遺る五條家とその歴史遺産マップ



## ① げんき館おおぶち

黒木町北大淵  
北大淵熊野神社  
里程表示石柱  
(柳川より10里)  
熊野堂城跡  
黒木町大淵  
ヨシビの彼岸花



### ①げんき館おおぶち

旧大淵小学校を改築し地域内外の交流拠点として作られた宿泊施設です。敷地内には吉野町と八女市の交流の縁により送られた山桜が植えてあります。



### ②五條氏邸

五條氏は、第14代五條長安のとき、柳川藩に仕え、旧縁の大淵に居住しました。現在の五條氏邸は、寛永3年(1751)に建てられ、八女市の文化財に指定されています。



### ③南大淵熊野神社

南北朝合一後10年を経た応永10年(1403)この地の土豪となった五條家4代当主頼治が、この地の安寧を願い熊野本宮大社より勧請し、創祀されました。25年ごとに御神紀祭が執り行われています。



### ④橋本右京貞原の供養塔

橋本右京は、良成親王の側近くに仕え、親王の剣を護持する役目を任っていたと伝えられています。この地の地名(剣持)の由来とされています。



### ⑤岳三九郎貞澄の墓

岳三九郎は、菊池一族と共に九州各地を転戦後、大仙御墓の警護のため、この地に定住したと伝えられています。

### ⑤ 岳三九郎貞澄の墓



### ⑥松瀬・湯瀬

懐良親王が正平14年(1359)の大保原の戦いで受けた傷を癒された隠遁の地とも伝えられています。



### ⑦日向神社

日向神社は大同4年(809)に創建されたといわれ、天照皇大神、瓊瓊杵尊、木花開耶媛が祀られています。この地は天孫降臨の伝説地でもあります。



### ⑧月足の光遠木

地元では、懐良親王がこの地(月足)に滞在したときお手植えされたと伝えられ、旧大淵中学校校歌に、「みことゆかしき光遠木」と謳われています。



### ⑨築足城跡

『邪馬台国探見記』には、「五條頼元が前征西將軍・懐良親王を擁護して居城した」とあり、『筑後將士軍談』には「五條左馬頭家臣築足彈正左衛門代々居城也」と記されています。



### ⑩八女津媛山の碑

北白川宮能久親王が、明治26年(1893)に良成親王御墓参拝の折、奥日向神峡を探勝され、一帯を八女津媛山と命名されました。